

## 令和5年度第4回豊岡市部活動の在り方検討委員会 議事録

令和6年1月29日(月) 豊岡市役所 稽古堂 3-1 交流室

### 1 開会(15時30分)

皆さん、こんにちは。本日は公私共にご多用の中、ご参集いただきましてありがとうございます。ただいまより、第4回豊岡市部活動の在り方検討委員会を開催します。

はじめに資格確認です。名簿3番の中田委員がご都合のため欠席です。過半数の出席をいただいておりますので、本日の会が成立しますことをご確認ください。

### 2 挨拶

#### (1) 西田委員長

皆さん、こんにちは。豊岡市部活動の在り方検討委員会に出席いただきましてありがとうございます。最初に能登半島地震でお亡くなりになりました皆様のご冥福をお祈りいたします。また被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

さて、この委員会も第4回を迎えました。豊岡市のスポーツ協会への協力依頼についてですが、12月9日に豊岡市スポーツ協会が開催した会議がありました。各競技別団体の代表者に集まっていたく会議で、競技別専門部会というのを開催しまして、文化・スポーツ振興課の主幹から、学校部活動については地域と連携をして進めるという説明と人材バンクへの協力をお願いをしていただきました。

本日の会議は、人材バンク登録の説明と合同活動、また今後のスケジュールについて協議をいただくこととしております。皆さんから活発な意見を出していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

#### (2) 嶋教育長

皆さん、こんにちは。第3回後の新しい情報はあまり提供できないのですが、1つだけあります。この部活動のこと以外にも、全国的に不登校が大きな問題になっています。国はそれに人を付けよう、あるいはフリースクールが効果的なので校内フリースクールを作ろう、発達に障害のある子たちの問題が多いので人を付けよう、一学級の人数が多いので先生の人数を増やそう、と人に関わることをたくさん提案して予算を付けようとしています。県も同じです。ところが、都市部と地方とで圧倒的な違いがあります。地方には人がいません。そういう予算が付いても人がいないので配置ができません。教育委員会が必死に人探しをしています。この部活の問題も同じで人がいません。いよいよ4月から人材バンクの運営を皆さんと共に知恵を出しながらやっていくのですが、平田さんが先週来られて、来年度の話をいろいろしました。専門職大学の学生が4年生まで全学年揃いますし、時間的にゆとりが出てくる子もいそうです。ここ1年、市内でもいろいろなニーズが出てきています。教育委員会からもお願いして、キャリア教育といって、中学校の2、3年生に自分の今後の進路をどうするのかということをして、話を聞きながらワークショップをしています。また、とよおかがんばりタイムといって、放課後の補充教室を学生にお願いできないかということも考えています。その中の1つに部活動のことも考えられます。実際に学生の何人かが五荘小の金管バンドの指導に入っているようです。結構いい指導ができています。そういう能力を持った子がいますよ、というようなことを平田さんから言ってもらいました。それをバラバラにするのではなくて、来年度NPO法人に委託をして、学生へのニーズをマネージメントしてもらい、周知をしてマッチングさせるということを考えているそうです。土日だったら学生も使えると思うので、学生も使いながら先ほど西田委員長からありましたようにそれぞれの団体か

ら1人でも2人でも入っていただいて、連携しながら人材バンクを豊岡らしい運営の仕方でやっていきたいと思えます。これから本当に難しい問題ばかりだと思いますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) ありがとうございます。ここからの進行は、設置要領により西田委員長にお願いします。

### 3 報告事項

#### 豊岡市立中学校部活動指導員人材バンク登録者募集要項について

(事務局) 前回、人材バンク登録者の募集要項について、たくさんのご意見をいただきました。特に募集要項の1の職務内容について、「これでは重すぎて応募しようと思えない」、「もっとハードルを下げてください」というご意見がほとんどだったように思います。それを受けて、県教委への確認を行ったり、他市町に情報を集めたりしました。外部に出す要項としては今あるような形にせざるを得ないというのが結論です。原則指導員一人で指導というのが補助事業の考え方です。もちろんすべて指導員がするのではなくて、学校の部活動に入っていただくので顧問の先生はいますし、学校長との相談で職務内容は決めていくものではあるのですが。せっかくたくさんご意見をいただいて申し訳ないですが、今の状態で出していくということを報告させていただきます。

また、部活動指導員と部活動指導補助員についてのご意見もいただきました。それについて三木市の担当者にも話を伺いました。部活動指導補助員は、市単独の予算でやっているから配置ができるということでした。国県の補助を使用した事業ではできないということがはっきりしましたので、現段階では指導員というかたちでしか配置することができないということもご理解ください。

次年度から人材バンクをスタートしていきます。関係団体の皆さんには、会員の方などに人材バンクの運営と登録が始まるということを知っていただきたいというのがお願いです。教育委員会としてはホームページにアップしたり、市の広報に掲載したりということを考えています。

(西田委員長) ただいまの報告につきまして、委員の皆様から質問などがありましたらお願いします。

(10番 田中委員) バンク登録申込用紙で申し込みをするということですが、4月1日から開始するというので、締め切り期限はあるのですか？それとも1年間を通して募集をされるのですか？

(事務局) 受付期間は12月までとしています。単年度予算の事業ですので、募集としては12月くらいまでして、順次学校に入っていただこうと思っています。ただ予算の配分が難しく、年度初めにはある程度ははっきりさせて有効に使いたいのですが、年度初めに全額の配分を決めてしまうと、年度途中から指導員を増やすことが難しくなるので、慎重に進めなくてはいけないなと思っています。

(10番 田中委員) 指導員が希望する中学校に○をすることがあるのですけれども、これはあくまで希望する中学校ということで、希望が集中して入っていただけない中学校が出てくると思っていますので、市として振り分けはされるのですか？それとも個人の意思を尊重されるのですか？

(事務局) 各中学校から部活動指導員を配置してほしいという希望が上がってくると思っていますので、こ

の中学校に行ってもらえないですか、行ってもらうことは可能ですか、というようにお願いしようと思っています。

(10番 田中委員) これは単年契約ですか？

(事務局) 人材バンクの登録は3年間です。資料5ページの8の任用の下の方に明記しています。

(8番 能登委員) 指導員の身分は、地方公務員法に規定する会計年度任用職員という扱いになると要項には明記されていますので、例えば月曜から金曜にお勤めの方が、土曜と日曜だけだったら指導員に入れる、と言われてもフルタイムで働いている方は難しいということになりますか？

(事務局) 労基法の関係ですね？

(8番 能登委員) フルタイムの仕事を持っている方は難しいということになりますね。学生か無職の方、勤務時間の自由が効くような方でしか難しいということになりますか？

(事務局) 割増をつけなくてはいけないから難しいのですが、人事課で確認したら、時給1600円という額が高いので、割増を込めた時給と考えられる、大丈夫だろうと聞いています。例えば市の職員としてフルタイムで勤めていて、部活動指導員として採用しても大丈夫ですかと確認しました。大丈夫だという確認を取っています。もちろん勤務先に兼業の許可を得なくてはいけないのですが、法的には大丈夫と確認は取っています。

(8番 能登委員) 国公立学校の教職員以外なら大丈夫ということですね。

(西田委員長) 申込用紙の関係で7ページの下に資格・段位・競技実績等とありますが、競技実績はどこまで書いたらいいのかと。書くことがたくさんある人もあると思いますので、競技実績については、代表的なものだけにしたらどうかと思いました。それから、8ページに学歴・職歴とあるのですが、応募される方が部活動に所属していたかどうかを書いてもらった方がいいかなと思いました。中学校・高校・大学等で部活動・サークル・同好会等に入っておられたかどうかというようなことを書いていただく方がいいのではないかなと思いました。それからもう1つ、それぞれの競技や文化活動において現在所属している団体があるのかどうか、競技別協会とか文化協会等に所属しておられるのかというようなことも書いてあれば、そこからの応援もできるのではないかな、応援を要請することもできるのではないかなと思いました。

これを広報とかに出していくときに、地域連携ということで学校の先生と一緒にやっていくということは、どんなふうにお知らせして行きますか？指導員に全く任せてしまうのか、どのあたりまで顧問の先生との一緒にやって行くのかを少しお知らせしておかないと、応募する方もどれだけの責任があるのか、ここに書いてあることすべてということであれば、二の足を踏んでしまうということになると思いますので、顧問の先生と一緒にやって行くというようなことが書けたらどうかと思います。

(事務局) 要項には書きづらいので、そのことは再度、課で検討して対応します。

(10番 田中委員) 今回、豊岡市における部活動の方向性が地域連携ということですが、地域移行とは全く別物だということだと思います。しかし、一般の方にしてみると地域連携と言われてもどんなことなのか分からないと思うので、きちんと周知して行く必要があるのかなと思います。

(西田委員長) それでは人材バンクの募集については以上とします。

#### 4 協議事項

##### (1) 合同部活動について

(事務局) 資料冊子10ページ、パワーポイント資料ではスライド5、6になります。人材バンクによる部活動指導員の配置と並行して、合同部活動についても進めていかなければいけないのではないかという意見をたくさんいただいています。事務局としては人材バンクの運営がある程度軌道に乗ってから進めるのがよいという思いがあるのですが、学校関係、保護者の皆さんの思いはどうか、課題としてどんなことが考えられるのかを聞かせていただければと思います。参考として、近隣の中学校間の距離と車での移動時間、スライド6には中学校ごとの部活動の一覧を載せています。

(西田委員長) 合同部活動について説明がありました。皆さんから意見ををお願いします。

(11番 原田委員) 合同部活動については、現時点で一部の学校で行われているのかなと思うのですが、現在の実施状況を分かる範囲で教えてください。

(8番 能登委員) 全てを把握しているわけではないですが、野球が今、豊岡南中と竹野中とで合同チームを組んでいます。但東中は今年解消したかな。極端に部員が少なくて球技などでチームが組めない場合は、合同チームを組むことを中体連が認めていますので、同一市郡内というのが基本です。

(11番 原田委員) それを踏まえまして、日高西中であれば、野球部は一人だけであったかなと思います。競技を続けたいと思っても試合にさえ出られない、それは野球に限ったことではなく、どの競技でも同じかなと思います。そういう状況がすでに起こっているのだから、学校単位で調整をする必要があるのであれば、できるだけ早く市として制度化をしたうえで、どうしたらそういうものに参加できるのか、そういう活動ができるのかをできるだけ早く整理していただきたいというのが保護者としての思いです。日高西中だけでなく、多くの中学校で部活動の数が限られている中で、合同部活動というものを定義づけた方がいいと思います。試合に出るだけではない合同部活動もあるでしょうし、試合に出るための合同部活動もあると思います。競技を見た場合には、サッカーがやりたい子は北中なのか南中なのか、やりたい部活動に参加するための合同部活動なのか、あるいは部を持続させるための合同部活動なのか、そういったところの定義についても改めて協議していただけるとありがたいなと思います。

(西田委員長) この協議事項についての結論はなかなか出にくいと思いますので、皆さんから意見をを出していただいて、今後の参考にと考えています。よろしくをお願いします。

(10番 田中委員) 部活動の主役は生徒たちです。生徒たちのためによりよい方法を探り、生徒たちと先生方、そして私たち保護者がコミュニケーションを図り、技能や記録の向上、生徒の目標達成、また生徒たちにとって望ましい部活動環境をつくることが重要だと思っています。そういうことを具体的に目指すことが、今私たちが集まって会議をしている意義であると感じています。また、豊岡こうのとりのプランの大切な柱の1つであるコミュニケーション教育、部活動がコミュニケーション能力の育成にも大きく寄与していると私は思っています。部活動というのは重要な位置づけにあると感じておりますので、いい方向に進むようにがんばって参りたいと思っています。

(11番 原田委員) 参考までに聞きたいのですが、学校間の距離を書きいただいているということは、基本的に日高であれば東中と西中と、出石であれば但東と、城崎であれば竹野と港というようイメージで合同活動を考えていくということでしょうか？

(事務局) この資料にそういう意図は全くなくて、あまりに遠過ぎても現実味がないかなと思ったので、近いところでまとめてみただけです。さすがに但東と竹野ではあまりにも現実味がなさすぎるかなと思って、近いところで2~3校を固めていました。市としてこんなふうを考えているというものではないです。

(10番 田中委員) そういう決まりごとが無いのであれば、仮にボートは城崎中しかないですけども、ボートがしたいということであれば、豊岡市全域の中学生を受け入れられるということでしょうか。

(事務局) 今後どうなるのか分からないのですが、それが合同部活動としてなのか、地域移行にするのか。そこまでするのであれば、もう地域移行だろうという意見も出てくるのではないかと思います。

(11番 原田委員) 同様にサッカーをやりたいとなると、豊岡北中と豊岡南中にしかないですね。北中、南中の部活動なのか、リベルテのようなクラブチームなのかみたいな選択肢が一部の学校はできるけど、この学校はできないというようなことがなければいいなと思います。地域移行の話も今後も並行して検討されるかと思いますが、連携だけにこだわらず、地域移行できる部活動や競技は地域移行しても中体連大会に参加することができるならば、並行して進めていけば活動としては成り立つのかなと思います。何度も同じことを言うてしまうのですが、日高西中はそんなことになっていますので、市全体としての考え方を整理できればいいなと思います。

(8番 能登委員) 今、合同の意味が3~4種類ごっちゃになっていると思います。中体連がやっている合同チームというのは大会に出るための合同チームで、日高西中でしたら去年関宮中と組んで出ておられましたけど、それは大会に出るためのあくまで救済措置の合同チームです。今後、合同部活動となってきた場合に、この資料のように近隣の学校で一緒になって合同でやるというのが1つ、それから先ほどから出ていますように拠点校を決めて、その拠点校にある種目をやりたい子が集まってくる合同部活動、あるいは指導者が巡回するというような仕組みを考えているものが文科省の事例にあったと思います。そんな2つ3つの合同がちょっとごっちゃになっているのかなと思います。将来的なものを見込んで、何ができるのかというのを絞っていかないといけないのかなと思います。

(西田委員長) では、この合同部活動については、今いただいたような意見を参考に今後検討していくということで、今日の会議は収めさせていただきたいと思います

(2) 今後のスケジュールについて

— 資料に沿って説明 —

(西田委員長) 教育委員会、文化・スポーツ振興課の欄でスケジュールを見ていただいて、意見等がありましたらお願いします。

(西田委員長) 私から1つ。令和6年の4月から9月以降のところ、部活動指導員人材バンクの運営となっていますが、受付が2月1日から始まるということになれば、もう少し左側に運営が来た方がいいのではないかと思います。それから、2月1日から受付をして、早い人は4月から学校に配置になるということならば、研修みたいなことをもっと早くする必要があるのではないかと。指導中にパワハラやセクハラをしないというような基本的な内容の研修をもっと早くしなければいけない。令和6年10月から研修会・講習会の準備となっているのですが、もっと早くした方がいいのではないかなと思います。

(文化・スポーツ振興課 原田課長) 予定の中に9月以降にモデル校で先行実施と書いてありますが、この流れで行くと9月以降に指導員が配置されている学校をモデル校とするのか、特定の中学校を指定してモデル校とするのか、どのようなイメージですか？

(事務局) 指導員に入っている学校ということになります。

(嶋教育長) 柱が2つあって、土日を中心とした地域連携で地域の方が指導者をするというのが1つ、合同部活動がもう1つ。このスケジュールに書いてあるのは、地域連携についてであって合同部活動については触れていません。この2つを両輪にして進めるという合意形成はできたので、合同部活動についてもどんなスケジュールで進めるのかを示さないといけないですね。合同部活動は、今の教職員か部活動指導員がするのであって、地域連携としてするのはない。合同部活動のマッチングについては校長先生方と協議をしながら、どの学校とどの学校のどの部活動ですのか。できるところからやっていくというようなスケジュールで。それから地域連携については、とにかく人がいないとできないので、人材バンクの様子を見ながら、どの学校のどの部活に入ってどんな活動をしてもらうのかをモデル的にやっていくというイメージになるので、このスケジュール案をもう一度作り直した方がいいかなと思います。

(10番 田中委員) 今、合同部活動の話が出ているのですが、これはする方向で考えているのでしょうか、それとも今のところは全く白紙の状況で話をしているということでしょうか。

(事務局) これまでの委員会で合同部活動の必要性についてご意見をいただいていたので、皆さんの考えをもう少し教えていただきたいと思いますと思っているところです。まだ、しっかり決まっているものではありません。

(西田委員長) 中学校の生徒数が少なくなってチームとして組めなくなってきているので部活動が存続できなくなります。合同部活動については、地域連携・地域移行と並行して検討していくというようなことでいいですか？

(10番 田中委員) 移動時間を見ると、やはりこのブロックごと、出石・但東ブロック、日高ブロック、港・城崎・竹野ブロックという分け方が現実的ではないのかなという印象です。豊岡市は広いですから。

(西田委員長) 11ページで、人材バンクの受付期間が示されていますので、それをこのスケジュールの中に入れておく必要があるのかなと思います。

(6番 中井委員) 一般の方々にPRするチラシとか広報の内容を作っていくということになると思うのですが、その中に研修会や講習会はこういったものを計画しますということ盛り込んでおいた方がいいと思います。そう考えるとこの研修会・講習会の準備が令和6年の後半から始まるというのは、少し遅いのではないかなと思います。手伝いたい、部活動に協力したいという気持ちがあっても、二の足を踏んでいる方がたくさんいらっしゃると思うので、講習会とか研修会とかでこういった方々に指導していただきながら、支援をもらいながら活動に入っていただけますよ、というようなことが具体的に打ち出された方が背中を押されるのかなと思います。募集要項にも講習会・研修会のことが触れられていたらいいなと思いました。

(8番 田中委員) 私はこの会議に出席しているので、募集について把握しているのですが、ほとんどの保護者の方には知られていないことだと思います。そういった中で2月から募集を開始されてもまず応募がないだろうと思います。今現在何かされているのでしょうか。

(事務局) この2月というのは、目安として考えています。

(11番 原田委員) 田中委員と同じ話になってしまうのですが、おそらく保護者の皆さんはこの地域連携の話をニュースで見たりネットで見たという程度の知識しか知らない、豊岡市がどう進んでいるのか、どう検討しているのかというのはあまりご存じではないと思います。私もここに参加していて周知していかないといけない立場ではあるのですが、募集の方が先に出てしまうと、「何だろうな」という不信感みたいなものが出てしまうような気がするので、同時にこういう検討してこういうふうに進んでいきます、その中でこれを募集しますみたいなチラシのようなものを学校から保護者に配布していただけると、「そうなのだな。じゃあ、うちの学校はどうなるのだろう。」というところから保護者の方が自分事になって、各学校でも議論になると思います。そして、市全体としてどうなるみたいなことになって、参加できる人を探すなど、地域でもこの議論が活性化していくのではないかなという気がします。募集は募集で進めていくのは早い方がいいのですが、合わせて保護者への周知をしていただけるといいかなという気がします。当然、市民の方に対してもホームページ等で検討の様子などの周知もされていると思うのですが、どうしても保護者もあまり積極的ではないところもあるので、教えていただけるとありがたいです。

(教育長) 教育委員会だよりに特集していますが、あまり見てもらってない感じなので改めてということですね。情報は提供していますし、ホームページにも出しています。

(事務局) 原田委員がおっしゃったように人づてでも広まるといいなと思ったできごとがありました。先日、市役所に問い合わせがあって、その方の息子さんが30歳ぐらいの方で部活動指導員のことを人から聞いたそうです。「友達と2人でバレーボールを指導したいと思っている」、「興味があるのだけど」、というお問い合わせをいただきました。何かしら情報が伝わることで可能性が高まるのだなということを実感したので、原田委員がおっしゃったようにいろいろな形で周知できたらと思います。

(嶋教育長) 田中委員が(教育委員会だよりの)記事を持ってきておられますね。なかなかいい記事が書いてありますので、これの繰り返しでもいいかもしれませんね。

(西田委員長) 冒頭に教育長が言われたように、指導者がいないということが一番の問題だと思いますので、できる限り早く募集を開始し、よく周知していただいて、コーチ・指導者になっていただける方に1人でも多く来ていただくようにすることがいいのではないかと思います。

(嶋教育長) 繰り返しになりますが、今こういう話し合いができていて、このような方向で話を進めますよ、ということをお知らせすること。指導者が必要になってきます。その指導者について、こんなふうに考えていますけれども、中井委員がおっしゃったように研修もやりますよ、学校に初めて入る方もできますよ、ということも伝えること。それから、指導者ができたからといって、さあ来週からやってくださいなんて絶対に無理ですから、最初は学校もしっかり関わって、学校に来ていただいて部活動の様子を見ていただくということも必要かもしれないし、活動計画にしても最初は学校と一緒に作って、何回か一緒に指導を見てもらってだんだん手を放すというようなソフトランディングの考え方も必要かもしれません。そんなこともうまく伝達できたら少しハードルが下がるのかなという感じがします。そんなことを今後事務局で考えていきたいと思います。

(2番 清水委員) 教育長がおっしゃるように募集要項を見ていて、やりたいと思っても学校がどれだけ関わってくれるのかな、一人でやれと言われても困ってしまうなど思いながら見ていました。だから、学校がどれだけ関わって、自分がどんなことを指導したらいいのか、具体的などころが見えてこないとなかなか難しいのかなと思いました。

(西田委員長) それではただいま出ました意見を参考に周知の方法や今後のスケジュールについて、事務局に再度お考えいただきたいと思います。協議事項は以上です。

## 5 連絡依頼事項

今後の在り方検討委員会について

## 6 閉会(16時45分)